



片倉城跡公園全景

国道十六号線を南下、北野街道を越えて右手の丘陵が中世城郭の片倉城址である。この城は、大江姓の長井氏が築城したといわれている。この一帯を含む湯殿川流域は、横山庄と呼ばれ、武藏七党の一つ横山氏の所領であった。横山氏が、建暦三年（一二一三）の和田義盛の乱に加担して滅亡すると、大江広元の所領になった。その後、広元から出羽国長井庄の地頭職を譲られた次男、時広が長井姓を名乗り領有したという。

康応元年（一二八九）、時広の子孫長井道広が山田の広園寺を開基した。寺の大門付近には、長井氏の館があったともいわれ、長井氏が片倉城を築いたとする説が有力視されている。長井氏は、十六世紀の初頭に衰亡し、片倉城も一時廃城となったと考えられる。城はその後、大石氏の支配を経て、北条氏照の滝山城の出城の一つとなったといわれている。乱世の面影は、わずかに残る空堀や土塁などが物語るばかりである。

◇散歩のみどころ

片倉城跡公園から、神社仏閣や牧場をたどりながら、湯殿川の上流へと散策するおよそ5kmの行程。

京王線片倉駅を出て、国道十六号線の湯殿川に架かる住吉橋を渡ると右手に東京都指定文化財の片倉城址がある。大江広元の子孫長井道広が、室町前期に築城したと伝えられる。現在は市立公園として整備されている。園内散策後、湯殿川沿いの遊歩道を歩き松門寺へ。そこから時田大橋を渡り北野街道に出て斟珠寺に。再び川に戻り時田のボート場跡のカタクリ橋、由緒ある稲荷神社へと歩く。再度北野街道に戻り長慶寺、大林寺へと歩き、そして磯沼牧場へ。また湯殿川に戻り、大橋上流から古代像の箇の発見現場を見る。最後に、灯籠のある大沢の切り通しを通り京王線山田駅で解散。

①片倉城跡 都

八王子市片倉町二四七五

片倉城跡は、湯殿川と兵衛川に挟まれた小比企丘陵の先端部に位置し、東、南、北の三面は江戸時代は沼地であったといわれている。先端部の東郭が主郭で、住吉神社のある所は腰部である。西郭は、南郭に大きく張り出しており、東郭を防護するような形になっている。その前方低地には、大手道が横切るようにのびている。敵の侵入に対する防御を考慮しての縄張りであった。

二つの郭は空堀によって区画され、空堀は鉤の手に掘り込んであり、曳橋か跳橋によって連絡されていたと考えられる。

西郭は、東郭の約二倍の広さを持ち、空堀が巡らされていた。その空堀は、北に向かって深く落ち込んでおり、湧水がある。

現存する遺構は、十五世紀後半、関東管領・扇谷上杉氏の家臣長井氏

によって築かれたと推定されている。扇谷上杉朝定によって再築された深大寺城と縄張りが類似している。現在は、片倉城跡公園として利用されている。



片倉城跡公園 案内図

●本丸跡と二の丸跡

本丸跡と二の丸跡を利用した二つの芝生の広場がある。本丸の北西の小さな丘には、櫓が建っていたといわれている。本丸の西側には、本丸の二倍ほどの広さを持つ二の丸があり、空堀で区切られ、橋で結ばれている。この橋は、曳橋か跳橋で、戦時には撤去できるものであったと思われる。また、空堀は現在よりも更に深かったと考えられている。

二の丸の西側は大きな空堀で、西方の台地とは切り離されており、深さもかなりのものであったという。

二の丸から南へ下る道には、空堀や土塁の跡があり、西南には軍勢隠しや縦堀などの遺構が残っている。今は草や木が生い茂り近づくことはできない。

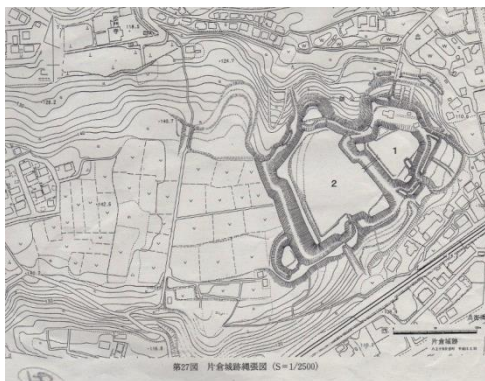
二つの広場は、芝生に加え、桜、ツツジ、藤などの他、四季折々の木々が植えられ、市民の憩いの場所となっている。



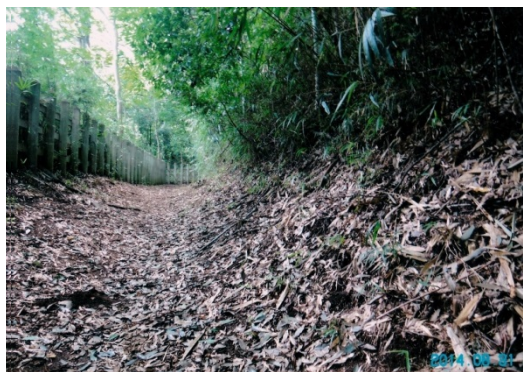
空堀



二の丸



縄張り図



土塁のように見える場

長井氏は安芸国の戦国大名毛利氏と同族で、鎌倉幕府別当大江広元の次男時広を祖としている。大江広元

は、文治元年（一一八五）、諸国に「守護」「地頭」を配して全国支配体制を強固にするように源頼朝に建策した。加えて、鎌倉幕府の創設、武士社会にふさわしい行政機構の整備に大きな役割を果たした。

これら広元の功に対して頼朝は、置賜郡長井莊、村山郡寒河江莊などの地頭職を与えて報いた。広元は寒河江莊を長男の親広、長井莊を二男の時広にそれぞれ分与した。かくして親広の子孫は寒河江氏と称し、時広は長井と称して長井氏の祖となつたのである。

毛利家系図は大江広元の四男、季光が相模国毛利荘を相続したことに始まる。

季光は三浦合戦で三浦一族に味方したため妻子ともども自害したが、

四男の経光だけが越後にいたことと長井泰秀のはからいで越後佐橋荘と安芸吉田荘の地頭職を安堵された。そして南北朝の対立の頃から安芸吉田荘に移住しここに本拠を置いた。



●住吉神社

御祭神は禊（みそぎ）の神である。

・表筒男命（うわづつのおのみこと）

・中筒男命（なかづつのおのみこと）

・底筒男命（そこづつのおのみこと）

住吉神社の紋は毛利の家紋と同じである。これは、代々毛利家の氏神様にしていたからである。

鎌倉管領片倉城主、長井大善大丈道広が応安五年（一三七二）城の鎮守の神として、摂津国住吉大社を勧請して奉祀したものとわれている。当神社には川幡元右衛門泰吉とその門人が、「数学に実力がつくように」と祈願された算額が奉納されている。



住吉神社鳥居



一番古い算額



住吉神社



算額（数年前の複製）



算額認定書



算額（最近複製されたもの）



明治 13 年 9 月と彫
られている手水舎
と釜貫氏子中と彫
られている石（右）



手水舎（一文字に三つ
星紋が彫られている）



奥 殿



アテネの戦士
（久保 浩作）



夢に包まれて
（石黒光司作）



浦島長寿の舞
（北村西望作）

●彫刻の広場

片倉城跡公園入口から住吉沼周辺には、北村西望（せいぼう）氏ゆかりの「西望賞」の入選作品が数多く展示されている。

●北村西望

明治十七年生まれ長崎県出身、東京芸術大学の彫刻科を卒業。文化勲章、文化功労賞を授与され、昭和五十五年に東京都名誉都民となる。

主な作品は、「長崎の「平和記念像」、
「浦島長寿の舞」を始め御獄神社の
「畠山重忠の像」など数多くの作品
を残している。

八王子市が進めていた「彫刻のまちづくり」事業に共鳴し、自然に恵まれた片倉城跡公園を「西望賞」受賞作品の展示にふさわしい場所であると自ら選定している。

彫刻を志す人は、必ずといってよいほどこの公園を訪れるという。

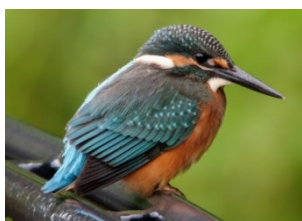


西望自刻像

●豊かな自然

公園化されてからは、カタクリ群生地として知られている。平町の大蔵院福生寺からのカタクリの移植により群生したものである。その他園内には、花菖蒲、睡蓮の群落もあり、特に早春から初夏にかけて次々と咲く一輪草、二輪草、山吹草等の山野草との出会いがある。

また、水辺の宝石、カワセミも美しい姿を見せてくれる。池の小魚を捕る瞬間を狙って、多くのカメラマンの姿が見受けられる。



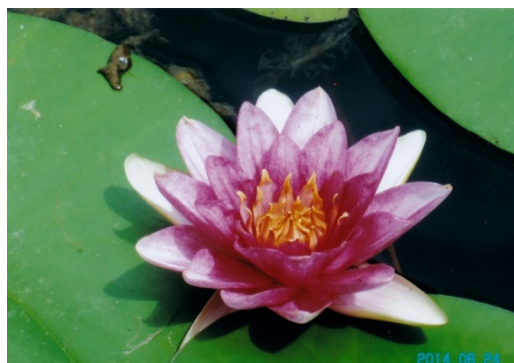
カワセミ



サギ



あづまや



睡蓮



カタクリ



整備された道と水車小屋

② 鶴壽山松門寺 かくじゅさん しやうもんじ

片倉二二

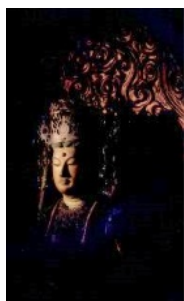
宗派 曹洞宗

本尊 虚空蔵菩薩

開創 長享元年（一四八七）

当初は子安山松門寺と称し、密教の寺として開基されたという。

慶長元年、寺町に移され鶴壽山と山号を改めた。江戸時代には幕府より御朱印を戴いた記録があり、由緒ある寺であつた。寺の紋は葵である。太平洋戦争の大空襲で松門寺の伽藍は観音堂、山門を残して焼失し、数千冊に及ぶ貴重な原始佛教に関する文献も焼失してしまった。その後、八王子市の区画整理事業に協力し現在の片倉町に移転した。現在は座禅の寺として多くの人々に知られている。



虚空菩薩像



門



本 堂

● 聖観音

延宝七年（一六七九）に作られた。詳細は文献が焼失したため不明。

聖観音にお参りするときは、極楽浄土の観世音菩薩を心に念じながらお参りすると、無病息災、下学上達に導いてくれるという。



鶴壽之水



聖 観 音

③常龍山 斟珠寺

しんしゅうじ

片倉町八六

宗派 臨濟宗 南禪寺派

本尊 弥勒菩薩

寺宝 地藏講板碑

開基 長井広房

開創 応永十六年（一四〇九）

大江師親の嫡子長井広房の内室が地藏菩薩を深く信仰し、広房が創建したといわれている。慶安二年（一六四九）徳川三代將軍より御朱印を拝領する。江戸期には斟珠庵と称していたが明治十五年（一八八二）に斟珠寺と改称した。境内には「時田の池」があり、辨財天（正しくは大辨財尊天）を祀っている。



一文字三つ星紋



時田の池



斟珠寺



辨財尊天



時田の池（弁天様が祀ってある）



左から大黒尊天、辨財尊天
毘沙門尊天



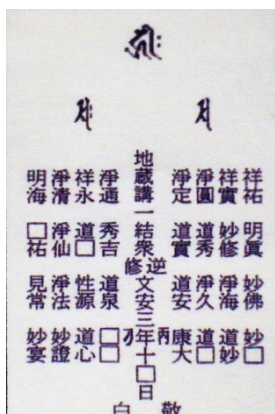
池に祀られている木彫り
(レプリカ) の辨財尊天



地蔵講板碑

●地蔵講板碑

板碑が造立されたのは、文安三年（一四四六）の室町時代といわれている。全国的に見て稀少な「地蔵講」による結衆板碑で、縦が約一m五十五cm、幅が約四十cm、厚さが約三cm。板碑としては大きい部類に入る。戦前までは片倉城跡にあったが、現在は寺宝として斟珠寺の本堂に保管されている。



地蔵講一結衆氏名



板碑下部



板碑上部

●五輪様

古くから村人はこの碑を五輪様と名付けていた。

戦国時代の末、豊臣・徳川の連合軍に攻められ、北条方の武士五人が城を逃れ、片倉まできたがついに力尽きて切腹したといわれている。あわれに思った村人がここに碑を建てて葬ったものだという。

別の説によると小田原城にいた北条の武士五人が八王子城に帰る途中にこの地で落城を知り切腹したという。また、切腹したのは片倉城主安藤常貞であるとの説もある。

この碑は昭和二十八年頃国道十六号線の拡張工事により、京王片倉駅の入口付近に一時移されたが、その後、樹珠寺に遷化したものである。

いつの頃からか、五輪様に祈願すれば病を治してくれるといわれて崇拜されるようになった。



庚申碑



五輪様



庚申碑と五輪様

●庚申碑

この碑は、昔（年代不詳）から八王子市片倉町旧只沼部落で多くの人々から庚申碑として信仰を集めてきたが、昭和六十三年の土地区画整理事業により、この地に遷座したものの。

●時田池の地藏尊

戦国時代、敵の追手を逃れ時田の池周辺まで来て力尽き亡くなった人、自害した人、また飢饉の際やむなく幼児や年寄りを口減らしのため葬った等々、人々の霊を慰めるために建立した地藏尊であるという。

塔婆には

「大施餓鬼会為弁天泉中水死者池畔殺死者各々霊位頓証菩提施主」と記されている。



水死者地藏尊

④時田のボート場跡

以前は、ひょうたん形の小さな池であり、休日になると娯楽の場として賑わった。このボート場は戦火の激しくなった昭和十七年に廃業になったが戦後間もないころはまだ池の姿を留めていた。湯殿川が大きく蛇行しているところから、昔の河川跡（三日月湖状態）を利用したものと思われる



時田のボート場跡



護岸工事による新旧の湯殿川比較図

●延命地藏菩薩

由井の稻荷神社の道を挟んだ向い側、高い台座に延命地藏菩薩坐像が安置されている。この前の道は、絹の道といわれ、作り坂から来る道に続いている。当時、絹商人達は、横浜への行き帰りの無事をこの菩薩に祈願していたという。また女中念仏や和講念仏講中も盛んに行われていたという。台座には、大戸村等の地名が刻まれている。



延命地藏菩薩坐像

⑤稲荷神社

祭神 宇賀御魂命
創建 建久元年（一一九〇）

小比企一二〇一

現在の社殿や彫刻は弘化四年（一八四七）に完成したものであり、建設にあたった棟梁は、飛騨内匠と称し、その後、日光東照宮の工事にあたったと伝えられている。古文書の中に神社完成祝に行った御神楽、余興として行った相撲大会の記録がある。相撲大会は明治初期までしばしば行われていたという。



稲荷神社

●透かし彫りの虹梁

拝殿に施された彫刻の精緻さと完成度の高さは市内でも屈指のものである。特に虹梁（化粧梁）は一本の木から龍の姿に透かし彫りで彫り上げた見事な技法が見てとれる。日光東照宮の工事にあたった飛騨内匠がこの社を建築したのであれば、東照宮に比する彫刻といえる。



透かし彫りの虹梁



濁流に向かう鯉



本 殿

● 両部鳥居

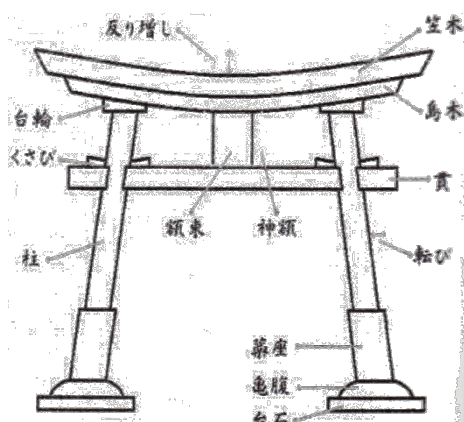
神社入口にある鳥居は両部鳥居であり、非常に珍しく厳島神社の鳥居と同じ型のものである。

両部鳥居の特徴

- ・ 反り増しがある
- ・ 島木（しまぎ）がある
- ・ 額束がある
- ・ 貫（ぬき）が柱から出ている
- ・ 柱の前後に稚児柱を持つ



絵 馬



両部鳥居の説明



珍しい両部鳥居

じんぎどうかんりようしきいしや

●神祇道管領式位社

神祇の祭祀を司り、諸国の官社を統管する位をいう。

寛政八年（一七九六）に神祇伯京都吉田家に願い出、神祇道管領式位社の称号を賜る。その記念碑が鳥居の右側に残っている。



神祇道管領式位社

⑥比企山長慶寺

小比企町一三三二

宗派 臨済宗 南禅寺派
本尊 釈迦如来座像
開山 存恵玄誠和尚
開基 徳応院慶林玉室居士
開創 応永年間
創建は定かでないが、およそ六百年位の歴史が有ると思われる。



長慶寺



釈迦如来座像

大正十五年（一九二六）に第九十八代長慶天皇の在位が判明した。それに伴い同天皇の陵墓等の調査が行われ、当山も歴史家がきて調査したが、なにも見つからなかった。
境内には枝垂れ桜・牡丹・芍薬などの多くの草木が植えられている。特に春の五月、秋の紅葉は見事である。

⑦湯殿川

湯殿川は、館町に源を発して長沼町で浅川に注ぐ川である。川の名の由来は、一説によると、出羽三山信仰から湯殿山の湯殿を川の名につけたものであるといわれている。また、武蔵七党の一つである横山党が、館町に居館を設け、この地の堂平に湯殿山を祭り、大日如来像を勧請し、これより流れ出る小川を湯殿川と名付けたという説などがある。

現在の湯殿川は、護岸工事も進み、遊歩道も完備されて、四季の花を咲かせている。
ウォーキングを楽しむ人も多い。



湯殿川のコスモス

⑧ 薬王山大林寺

小比企町一三七二

宗派 曹洞宗 館龍見寺末

本尊 釈迦牟尼仏像 薬師如来

中興開山 芳山月州上人

開基 小坂大林居士

開創 明応四年（一四九五）

太平洋戦争の大空襲で大林寺の伽藍は消失してしまい、貴重な文献も焼失してしまった。境内には薬王地藏尊がある。



大林寺



右：薬王地藏尊
左：木製水子地藏



薬王地藏尊



木製水子地藏尊



● 水子地藏

薬王地藏尊の社の横に祠がある。木製の水子地藏である。木仏というのは最近では珍しい。平成五年に造立された。

⑨磯沼牧場

小比企町一六二五

磯沼牧場は飼育する牛の乳を使ってヨーグルトやアイスクリームなどの製造直売を行っている。それらの製品は地元のスーパーにも並べられ人気も高い。

こうした住宅地に近い牧場では悪臭などが問題となりがちだが、ここではコーヒーやココアの殻などを使って臭いを抑え、その方法の珍しさも手伝ってすっかり有名になった。

今では山羊などの牛以外の動物もいて、地元の保育園などの子どもたちが見学に訪れたり、テレビや雑誌などのメディアが取材に訪れるのも珍しくない。

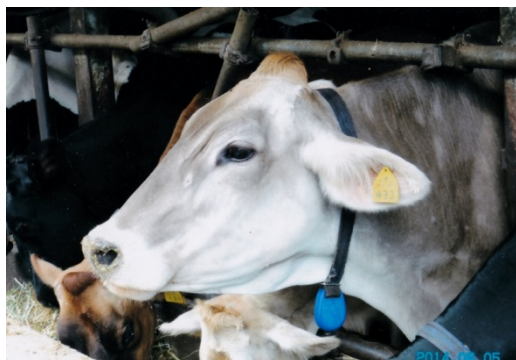
牧場内には、「世界で一番小さなヨーグルト工房」と呼ばれている工房がある。数種類のヨーグルトやアイスクリームなどを加工している。また、乳しぼり・チーズづくりなどの体験教室なども開いている。



飼育されている牛



磯沼牧場の看板



飼育されている牛



磯沼牧場

● 庚申塔

磯沼牧場の裏手の赤道（明治期に作られた道）と言われる折れ曲がった旧道の坂道に庚申塔が二基安置されている。右が古いものである。以前、山田方面に行く時は、大沢の切り通しは通らず、この道を使ったという。牧場近くの道なので独特の臭いはするが生活道路として利用者が多く、今に残る貴重な昔道である。



磯沼牧場裏の庚申塔

⑩ 古代象の歯発見

湯殿川の大橋から上流へ約百五十mほどの川底から百万〜二百万年前の古代象の歯が発見された。

発見されたのは昭和三十四年八月二十日のことで、釣りをしていた近所の床屋さんの弟が「ずっしり重い奇妙な形の歯」を釣り上げたもの。歯は右の奥歯で年齢は百四十歳から百五十歳の老象といわれている。現在、八王子市の郷土資料館に保存されている。

最大長 一二三mm
最大高 四三mm
最大幅 七五mm



山田への近道
(磯沼牧場裏)



像の歯が発見された場所
(湯殿川上流)



上：パラステゴドン像の奥歯
下：ステゴドン像の歯

⑪ 燈籠と切通し

この燈籠は文政三年（一八二〇）に、この地区に住む人々が家の安泰・五穀豊穡を願って碑面に秋葉大権現・石尊大権現・榛名大権現をご祇し泰造したもので、今は三代目の燈籠になっている。

この坂道は中野往還といい大澤の坂と呼ばれ、八王子と半原方面を結ぶ絹の道でもあったという。当時の



像の歯が発見された場所
（湯殿川上流）



切通の途中にある燈籠



小比企の切通し
大澤の坂、絹の道ともいう

道は、幅も狭く荷馬車で往来する人々にとつては難所の坂道の切通しであった。今では無事故を願い、交通安全の燈籠になっている。



裏面



右側面



正面と左側面

切通の途中にある燈籠の側面

◎参考文献

- ・各遺跡にある説明看板
- ・八王子寺院めぐり
- ・八王子南部の歴史と民俗
- ・八王子観光マップ
（片倉城跡と絹の道）
- ・歴史と浪漫の散歩道
- ・館町とその周辺
- ・らいぶらりNo.48
- ・谷戸のくらし（宇津貫・片倉）
- ・インターネット各ページ
- ・武家家伝 長井氏
- ・Web八王子辞典
- ・横浜線沿線散歩公園探訪
- ・松門寺の歴史
- ・鳥居の種類
- ・磯沼牧場
- ・「八王子散歩見聞録」
- ・八王子市郷土資料館資料
- ・昭文社
- ・八王子市地図

メモ